

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2171600287
法人名	有限会社 エスランケア
事業所名	グループホームささゆり
訪問調査日	平成19年8月20日
評価確定日	平成 年 月 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入)
法人名	有限会社 エスランケア
事業所名	グループホーム ささゆり
所在地	瑞浪市南小田町3 - 300 (電 話) 0572-68-6303
評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会
所在地	大垣市
訪問調査日	平成19年9月4日

【情報提供票より】 H19.9.6

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16 年 2 月 20 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 8 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 9

(2) 建物概要

建物構造	木造耐火 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30.000 円	その他の経費(月額)	18.000 円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1.200 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2		1 名	
要介護3	3 名	要介護4		3 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 85.7 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	広瀬クリニック	瑞浪市歯科医師会
---------	---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から一步入った住宅地にあり、買い物に便利で散歩にも適し、ホームからは子供たちが遊園地で遊ぶ姿を眺めることができる静かな佇まいである。家族の誰かが認知症になった時、また自分自身が認知症になった時、「個人の尊厳が保たれ、その人らしい生活をさせてあげたい」との願いから「グループホーム ささゆり」が設立された。家庭的でしかもバックには高齢者の機能を支える接骨院があり、積極的に必要な訓練を行うことができる。利用者の笑顔と楽しく暮らすことを第一と考地域密着型を意識した「われは人なり、瑞浪市民なり」という、理念の下、市町村との連携や地域との交流を大変熱心に進めており、近隣住民の理解も深まりつつある期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で改めて自分たちのケアの質確認ができ、自信にもつながった。また、認知症の知見の深い医師との連携が取れるようになった。言葉は、慣れてくると人生の先輩であること忘れがちになることに、意識して丁寧な言葉遣いをしている。運営者夫妻が必要な時に応援に入り、人員に余裕ができています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>スタッフ会議では事前に外部評価については話してあった。運営者と管理者により相談しながら評価のチェックをしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>・外部評価の結果報告 ・グループホームの行事への参加について ・入居者の状況について ・ボランティアの受け入れについて ・苦情解決の取り組みについてなどが議題となり、家族の代表、市高齢介護課、区長、民生員、社協ボランティア、いきいきサロン担当者など管理者などの参加により情報交換が行なわれている。地域で行なわれる夏祭りへの参加やホームで行なわれる行事への参加呼びかけができた。また、ボランティアの情報を上げ、多彩なボランティアの導入を考えている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族から脱衣場が寒いという苦情があり、トイレと脱衣場の間にカーテンを着ける対応をした。また、床暖房にして欲しいという要望があったが靴下を提供し、少しでもその緩和を図った。 家族の意見や苦情は訪問時ひとり一人に声掛けを行い、ホームでの暮らしぶりを報告したり、意見などを聞くようにしている。また、玄関先に「苦情相談箱」を設置しいつでも対応できるように心掛けている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩中近所の方と挨拶したり、農作物を頂くこともある。地域の高齢者が集ういきいきサロンに出かけて交流したり、野菜などを提供して下さることがある。どんど焼き、夏祭り、福祉祭に参加し秋祭りの神輿の休憩場所として提供している。また、公園の草取り奉仕にも参加している。 今後、気軽に介護の相談を受けたり、情報を発信していく地域の拠点となるよう地元の人々と交流を図り、連携を深めていく方向である。</p>

2. 評価結果(詳細)

(■ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者は地域密着型を意識して今年度から、覚えやすい「われは人なり 瑞浪市民なり」という、理念に変更した。地域住民の一人として暮らしを支えていきたいという思いがある。		地域密着型を意識しこれまでの理念を見直したが、住み慣れた地域での安心した暮らし、関係性や地域生活の継続をささえるために、職員全員で確認しホームが目指すサービスのあり方が具体的にイメージできるような理念をつくりあげて欲しい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を誰でも目にすることができる玄関や事務所に掲げ、日々の生活のなかで地域の人達と交流ができる「いきいきサロン」に出かけたり、自治会の草取りに参加するなど場面づくりの支援が行なわれている。		職員ひとり一人が、理念を共に意識しながら話し合い、実践が理念に基づいたものになるよう、さらに日々の取り組みを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩に出かけ挨拶を交わしたり、農作物や草花をもらったり、地元の人と一緒に散歩したりふれあう機会はある。いきいきサロンに積極的に参加し、情報交換の場となっている。自治会に加入し、公園の草取り、祭りなどの協力をし、地元の人々との交流に努めている。		地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力を今後も期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価を受けて、認知症の知見に深い専門医の受診支援ができるようになった。運営者、管理者は評価の意義を理解し、質の確保・向上につながると捉え、自信がもてるようになり、前向きに取り組む姿勢が伺える。		評価は形式的な作業に終わらず、評価のねらいや活動方法を全職員が理解するよう努めながら、評価の一連の過程を通して全員で話し合い、実践に活かされることを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が2ヶ月に1回開催し、家族、市高齢介護課担当者、社協ボランティア担当者、近隣グループホームの管理者、いきいきサロン担当者、区長、民生員、運営者、管理者などの参加がある。・現状報告・外部評価の結果・行事への参加・ボランティア受け入れ・苦情解決についてなどの情報交換が行なわれている。得た情報収集から地域行事に参加したり、レクリエーションの充実を図るボランティアの積極的な活用につなげていこうと取り組んでいる。		運営推進会議では、ホームからの報告とともに参加者からの質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議以外にも普段から相談したり、情報交換を行い、連携を図りながら、質の向上に努めている。		地域密着型サービスとして包括支援センターとの連携をホームからアプローチし関係作りを積極的に行い、協働関係の構築が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は毎月サービス利用料をホームへ直接支払うシステムになっている。訪問時に近況を報告したり、お便りとともに家族に利用者の暮らしぶりを知らせている。預かり金の収支報告も行なっている。また、健康状態の異変時にはそのつど電話連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	料金支払いシステムにより、1ヶ月に1回の家族の訪問があり意見などが言える機会を作っている。家族から「脱衣場が寒い」という利用者の苦情があり、トイレと脱衣場の間にカーテンが取り付けられた。また、運営者は家族の声を聞く「雑談会」を開き、運営に反映させていく取り組みがある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規職員について家族には、お便りを通して紹介し、混乱しないようコミュニケーションを図りながら馴染みの関係を作り自然に入り込み、入居者のダメージを最小限にするよう努めている。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の質を向上を図る研修や講習をうけることが必要であると理解し、研修報告書を作成し事務所に置いて誰でも見られるようにしている。外部研修などの情報提供をし、参加希望者には勤務の配慮がある。		管理者や職員を段階に応じて育成するための年間計画をたて、スキルアップを期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に管理者も参加し情報交換の場がある。同業職員と個人的な交流はあるが、質を向上させていくような勉強会にまでは至っていない。		運営者は同業者との交流や連携の必要性を認識しているが、サービスの質の向上を目指して早急に具体化することを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居予定家族には見学してもらい、ホームの1日の過ごし方など説明し、相談を交えながらイメージしてもらっている。</p>		<p>利用者の視点に立って職員が自宅に出向いたり、遊びに来てもらったりして、ホームの雰囲気やサービスの場に徐々に馴染みながら利用に移っていきけるよう支援を期待する。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>農作業の経験のある利用者には豆作りを教えしてもらい、花の好きな利用者は種から蒔いて育て方を教えてもらっている。また、美味しいお漬物作りを一緒に行いながら喜びと美味しさを味わい共に過ごし支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所時に認知症高齢者ケアマネジメントセンター方式により生活史、身体状況や家族・入居者の思いなどを聞き、意向の把握に努めている。日々のかかわりの中で声掛けしたり、言葉や表情などからその真意を推し測り、小さなことでも見逃さないよう申し送りノートで共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者・家族、職員の意見や気づきを提案し、反映させ介護計画の作成に活かしている。</p>		<p>利用者主体の暮らしを反映した介護計画となるよう職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い個別具体的な計画作成を期待する。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1回/月 定期的に スタッフ会議が行われ、現状に応じ見直しされているが、基本的には介護認定有効期限により見直しが行われている。</p>		<p>現状と介護計画がかみ合っているか、1ヶ月に1回は新たな目で利用者や家族の今の意向や状況を確認すると共に、モニタリングを行い、現状に即した、あるいは変化の兆しに予防的に対応していくための介護計画の見直しを望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊の支援、通院サービス、機能訓練指導等の柔軟な支援が行われている。		認知症対応の居住環境や職員の機能を活かして、デイサービスやショートステイなど更なる支援の取り組みを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の利用者が多く主治医は変えることなく、継続的に医療が受けられる(1回/月 定期的に受診)通院の支援を行っている。24時間の医療体制はないが、看護職員と主治医との連携により適切な支援ができる。また、認知症の専門医に気軽に相談ができ、適切な医療が受けられる体制がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族の意向を確認しながらホームで対応可能な限り支援してきたが、最後まで看取り介護を希望される利用者がなく、医療機関へ搬送している。		医療との信頼関係と連携を築き、重度化や終末期に向けた方針や支援内容の検討を期待する。
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者はスタッフ会議にて管理者、職員にプライバシー保護について確認合っている。日常的な言葉掛けにも押れあいにならないよう節度を持って接するよう徹底している。また、居室入室時もノック・声掛けなどで確認することをスタッフ全員が実行している。		パンフレットの中に「痴呆」という言葉で表現されている。利用者の尊厳に係わることのため早急に対応されることが望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のリズムを中心に日々の暮らしを支援し一人ひとりのペースで一日が送れるよう利用者の気持ちを大切に、見守りながら取り組んでいる。起床時間、食事時間など柔軟に対応し、食事は温かい物を食べてもらい、入浴時間も希望に応じる体制がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
	22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者も料理の買い物、下ごしらえ、配膳、後片付け等職員と一緒に参加し、ホームの菜園で収穫した野菜や季節の旬の物を取り入れ、おやつも手作りするなど楽しみを大切にしている。「美味しいですね」と、声を掛けると、「それが一番うれしい」という言葉が返り、利用者と職員の和やかな雰囲気です。</p>		
	23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的に入浴の流れはあるが、利用者の希望を大切に心がけている。個浴でバスクリンを入れてゆっくりくつるいでもらったり、季節によってはゆず風呂を楽しむ工夫がある。また、その日の体調によっては、シャワー浴など臨機応変に対応している。入浴後は水分補給に気を付けている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
	24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>朝の掃除、畑仕事、ちぎり絵、絵を描くなど楽しんでいる。利用者の指導のもと一緒に作ったお漬物が大好評であった。一人ひとりに合った役割や楽しみごとや本人の潜在している記憶やできる力を見つけ出しながらそれを活かす場面作りの支援がある。家族も気付かなかった事が見出され、いきいきとした表情がみられ家</p>		
	25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>日常的に雨の日以外は散歩や買い物など利用者の希望により戸外に出かけている。近くに公園もあり、子供達の遊ぶ姿を眺めながらゆったりとしたひと時を過ごし、散歩の途中で近所の人に野菜をもらったり、花をもらい季節感を肌で感じながら気分転換をはかっている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援						
	26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>居室には鍵がなく、玄関も日中は開放している。廊下からは玄関が見えない構造になっており、帰宅願望の強い利用者には一緒に付き添い、落ち着いた素振りなど帰宅願望サインを見逃さないよう安全面に配慮しながら見守りの支援をしている。</p>		
	27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災時(災害時)行動マニュアルが事務所内に掲示してある。消防署や地域代表の連合区長に呼びかけ、日頃から協力が得られるよう働きかけている。</p>		<p>利用者と一緒に避難訓練などを定期的実施することが望まれる。また訓練も地域住民の方々と一緒に参加してもらえるようさらなる働きかけを期待する。非常用飲料水、食糧の備蓄をし、定期的に入れ替えすることを考慮されたい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分量、食事摂取量は介護記録に記載され検討支援している。献立は利用者も希望を取り入れ、一人ひとりに合った食事形態で提供している。</p>		<p>運営者は時々栄養のバランスがとれているかパソコンソフトでチェックしているが市の栄養士あるいは、保健士の専門的なアドバイスの検討が望まれる。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム玄関通路横には草花が植栽され、リビングには利用者が制作したきり絵や絵が掲げられ、廊下には四季折々の写真が季節感をかもし出し、訪問者の目を楽しませている。ルーフデッキにもテーブルや椅子を置き季節により日向ぼっこに最適で、ソファや畳コーナーなどおもしろい場所でも過ごすことができる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真・本・整理ダンス・テレビなど持ち込んであり、利用者が落ち着いて日々過ごせる居室となっている。</p>		<p>利用者の自宅に近いということもあり居室に馴染みの物が少ない。運営者は家族に働きかけているが、利用時の説明で馴染みの物がいかに大切かその意義を理解してもらえるよう積極的な働きかけを期待する。</p>